

# 【経営ニュース】

## H20年版労働経済白書 50代以上に勤労意欲低下

厚生労働省はこのほど、平成20年版労働経済白書「労働経済の分析 - 働く人の意識と雇用管理の動向 -」を公表した。その発表によると、有効求人倍率は、2007年10月～11月期に1.00倍となり、新規求人倍率も含めて低下している。正社員の有効求人倍率についても、2006年の0.63倍から2007年の0.61倍へと低下している。完全失業率は、5年ほど前過去最高の5.4%となった後、低下傾向となったが、2007年平均では3.9%と改善に足踏みがみられる。

新入社員の入社動機をみると「自分の能力、個性を生かせるから」という理由が最も多く、逆に「会社の将来性を考えて」が減少、対照的に、「技術が覚えられるから」、「仕事が面白いから」が伸びている。また、規模の大きい企業ほど「コミュニケーション能力」や「チャレンジ精神・向上心」に期待する割合は大きく、「職業意識・勤労意識」等は、小さい企業ほど割合が大きい。50歳台以上の層では「賃金が低いから」「評価の納得性が確保されていないから」等の理由で働く意欲の低下が増えてきている。またパート、派遣、契約社員などの雇用が増加しており、その割合は3割を超えている。なかでも1～29人規模の企業では、1987年の6.8%から、2007年には39.2%にまで達している。

---

---